◆当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。

KAWAI
DIGITAL PIANO
CN22
CN28
取扱説明書

●同梱品
- □本体
- □スタンド一式
- □譜面台
- □電源コード
- □取扱説明書（本書）
- □ファンクションシール（１枚）
- □保証書
- □スタンド組立図
- □高低自在椅子
- □ヘッドホン
- □ヘッドホンフック
- □ご愛用者カード
- □アフターサービスと音楽教室のご案内
- □楽譜集のご案内
- □楽譜集の払込取扱票

《ごあいさつ》

このたびは、KAWAI 電子ピアノをお買い求め頂きまして、誠にありがとうございます。
本機では、ピアノ音色をはじめ全15種類の音色で演奏を楽しむことができます。また、メトロノームを始め自分の演奏を録音する機能やレッスン機能を搭載しレベルに応じて練習に役立てることができます。
この他、音を重ねるデュアル演奏や指一本で演奏を楽しめるコンサートマジックなど、家族みんなで楽しめる多彩な機能を装備しています。さらに、電子楽器統一規格であるMIDI機能も装備していますので、他のMIDIを装備した電子楽器と接続してアンサンブル等、バラエティーに富んだ演奏にも対応できます。

本機の性能をフルに発揮させていただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

目　次

◆安全上の注意 2
1.各部の名称と働き 4
◇ 操作パネル 4
◇ 付属のファンクションシールの使用 4
◇ ペダル 5
2.演奏してみましょう 6
1）基本操作 6
2）デュアル演奏 8
3）4ハンズ（連弾演奏） 9
4）メトロノーム（METRONOME） 10
5）音色デモ曲 11
6）コンサートマジック 13
3.レッスン機能 14
4.録音・再生 18
1）録音 18
2）再生 19
3）録音内容の消去 19
5.設定モード（ファンクション） 20
1）設定モードの基本的な使い方 20
2）タッチを変える 21
3）トランスポーズ 21
4）チューニング 21
5）リバーブ（残響） 22
6）ダンパーエフェクト 22
7）コンサートマジックの演奏モードを切り替える 22
8）MIDIの送信・受信チャンネル 23
9）ローカルコントロール 23
10）マルチティンバー・モード 24
11）プログラム（音色）ナンバー送信 25
6. 付　録 26
1）外部機器との接続 26
2）本体の組み立て方 27
3）主な仕様 29
4）故障かな？と思ったら（お問い合わせ先） 30
MIDI IMPLEMENTATION CHART 31

◆安全上の注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています。製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。

注意
感電の危険あり
本体をあけるな

注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。

このマークは、感電の危険があることを警告しています。

このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

⚠ **警告**	この表示は死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ **注意**	この表示は傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容です。

絵表示の例

△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。

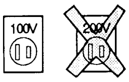
○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。左図の場合は「分解禁止」が描かれています。

●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

⚠ 警告

◆電源は、必ずAC100Vを使う

100V以外禁止



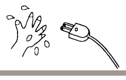
●電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
●発火の恐れがあります。

◆電源プラグにほこりが付着しているときはほこりをきれいにふき取る

●感電、ショートの原因になります。

◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

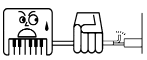
濡れた手で触らない



●感電の原因になります。

◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

プラグ部分を持つ



●コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

プラグを抜く

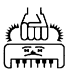
●落雷時に火災の原因になります。

◆水がかかる場所で使用したり、水に濡らす（つける,かける,こぼす）などしない

●漏電によって、感電や発火の原因になります。

◆本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない



●変形したり､倒れる恐れがあり、故障や､けがの原因になります。

◆イスは次のように使用しない

使用しない

●イスで遊んだり、踏み台にしない
●イスには2人以上で座らない
●イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）
●イス組立時、ネジをしっかり締める
●イスのネジがゆるんだ状態で使用しない（定期的にしめなおす）
●不安定な場所におかない

●イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。

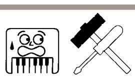
◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない

長時間使用禁止

●聴力低下の原因になる恐れがあります。

◆本機を分解、修理、改造しない

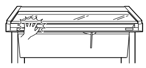
分解禁止



●故障、感電、ショートの原因になります。

◆鍵盤蓋は、ゆっくりしめる

ゆっくりしめる



●いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

◆組立は必ず組立説明を見て行う

●手順どおりに組み立てないと破損や事故の原因になります。

⚠注意

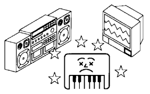
◆本機を次のような所では使用しない

- ●窓際など直射日光の当たる場所
- ●暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
- ●戸外など極端に温度の低い場所
- ●極端に湿度の高い場所
- ●砂やホコリの多い場所
- ●振動の多い場所
- ●不安定な場所

使用禁止

●故障の原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない



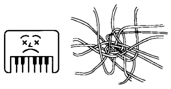
●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆電源コードは必ず付属のものを使う

●付属の電源コードは本機専用ですので、他の機器で使用しないでください。

◆電源コード、接続コード類はからまないように接続する

からまないようにする



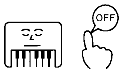
●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

●容易にコンセントの抜き差しができるよう、本機を電源コンセントの近くに設置してください。

●パイロットランプが消えていても、コンセントを差し込んだ状態であれば、機器に電源がつながっています ので感電に注意ください。

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

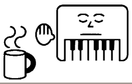
電源を切る



●本機や接続機器の故障の原因になります。

◆本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない



●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

◆本体上にビニール製品、プラスチック製品やゴム製品を置かない

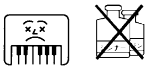
●変色や変形の原因になります。

◆イスで床を傷めないように注意する

●イスの下にマットを敷くなどして床やたたみを傷つけないように注意してください。

◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン／シンナー禁止



●色落ちや、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

●ヘッドホン使用時、または音量下げて演奏の際は、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

■保証書について

●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

●保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

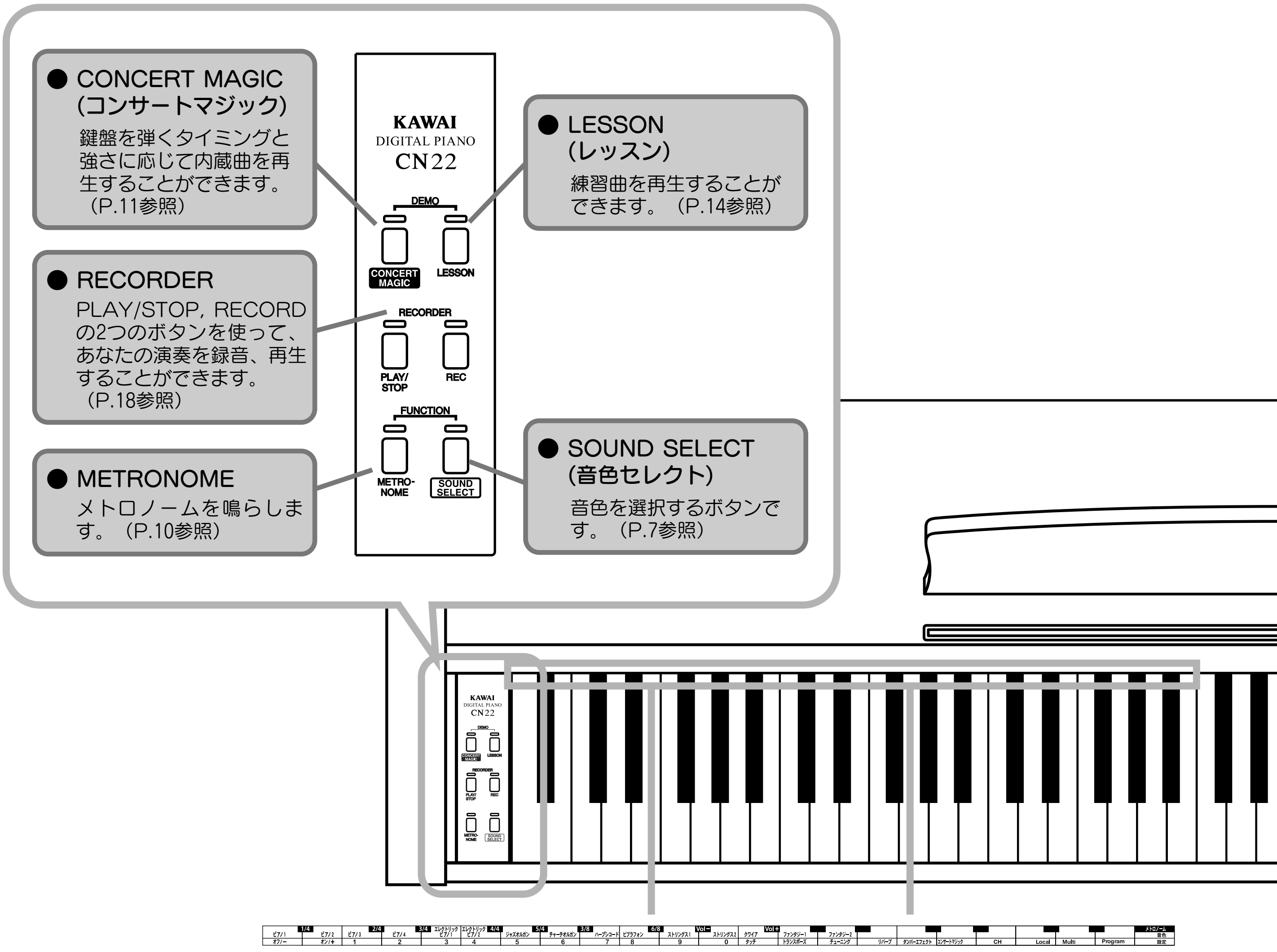
■修理について

●万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、お買い求めいただいた販売店、またはお近くのフィールドサポート（同梱の「アフターサービスと音楽教室のご案内」をご参照ください）までご連絡ください。

1.各部の名称と働き

電子ピアノに付いている、レバーやボタンなどの位置とその機能を説明します。

◇ 操作パネル



ファンクションシール

◇ 付属のファンクションシールの使用

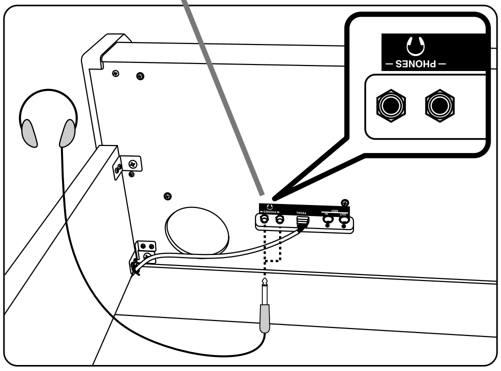
本機には、ファンクションシールが付属されています。
メトロノームや設定モードなどで値を設定するときなどに、黒鍵の後ろ側に差しこんでおくと便利です。
シールの左はし「ピアノ１（オフ／ー)」を最低音の鍵盤に合わせて置きます。
シールになっていますので、貼り付けることもできます。

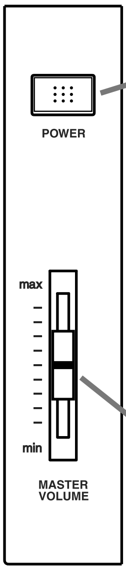
1/4		2/4	3/4		4/4	5/4		3/8	6/8		Vol−
ピアノ1	ピアノ2	ピアノ3	ピアノ4	エレクトリックピアノ1	エレクトリックピアノ2	ジャズオルガン	チャーチオルガン	ハープシコード	ビブラフォン	ストリングス1	ストリングス2
オフ/ー	オン/＋	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0

Vol＋										メトロノーム
クワイア	ファンタジー1	ファンタジー2								音色
タッチ	トランスポーズ	チューニング	リバーブ	ダンパーエフェクト	コンサートマジック	CH	Local	Multi	Program	設定

● PHONES
（ヘッドホン）

ヘッドホンを接続する端子です。
ヘッドホンを2つまで同時に接続できます。



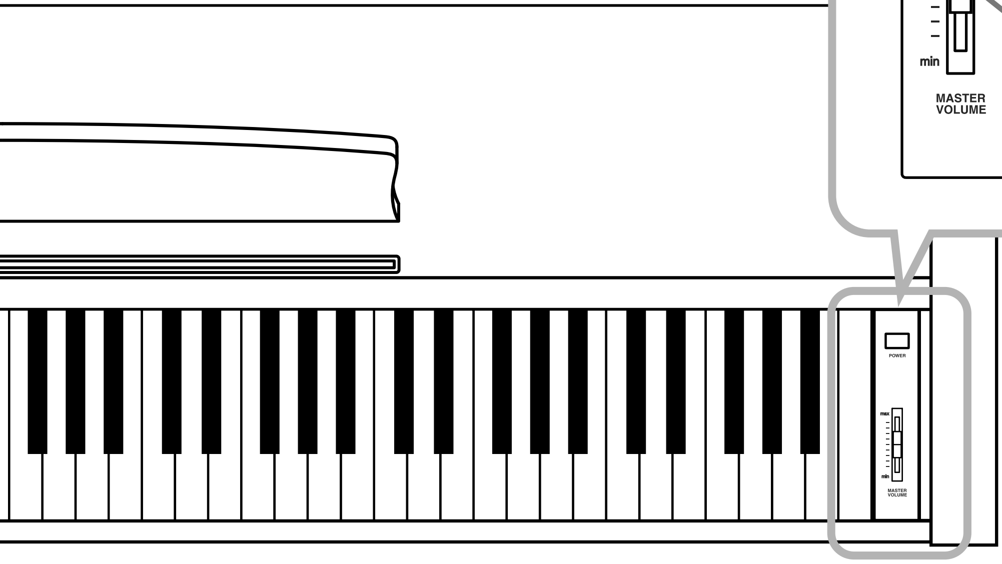


● POWER
（電源スイッチ）

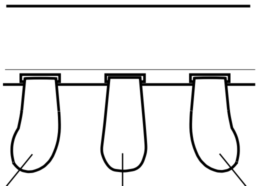
電源をON/OFFするスイッチです。ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。
（P.6参照）

● MASTER VOLUME
（マスターボリューム）

内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調整します。max側にいくほど音量が大きくなり、min側にいくほど音量が小さくなります。
（P.6参照）



◇ ペダル



● ダンパーペダル

音に余韻を与えます。
ピアノの音は、鍵盤を押すとハンマーが弦をたたき、発音しますが、指を離すとダンパーが弦を止めて発音が止まります。
ダンパーペダルを踏むと指を離してもダンパーが弦を止めないため、音が止まらず豊かな響きが得られます。ペダルを踏む量によって残響時間の長さが変わります。

● ソステヌートペダル

鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むと、そのとき押さえていた鍵盤の音のみに余韻を与えます。
従って、このペダルを踏んだ後に押した別の鍵盤の音は、通常通り発音します。

● ソフトペダル

音色がやわらかくなり音量も小さくなります。

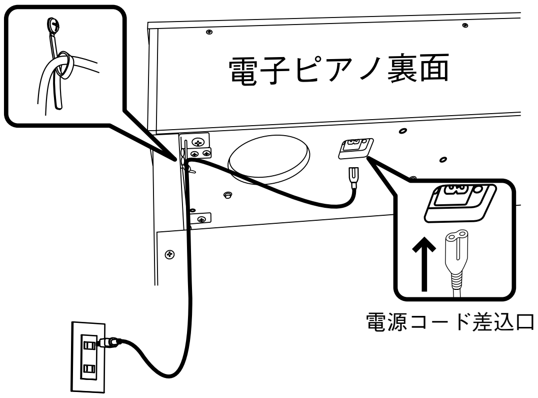
2.演奏してみましょう

ここでは、電源を入れ音を出すまでの基本的な手順を説明します。

1）基本操作

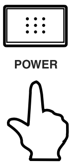
◇ *操作 1*

付属の電源コードを AC100V のコンセントに差し込みます。あらかじめ電源コードを差込口に接続しておいて下さい。



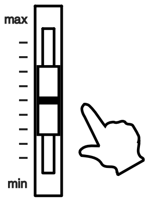
◇ *操作 2*

POWER（電源）スイッチを押して電源を ON にします。電源を切るときはもう一度押します。



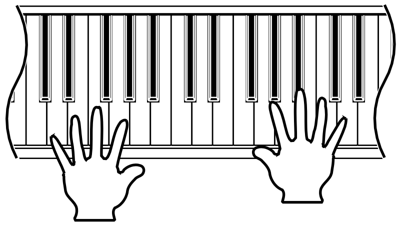
◇ *操作 3*

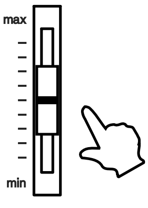
MASTER VOLUME（マスターボリューム）（P.5）を中央付近にセットします。



鍵盤を弾いてみましょう。

電源 ON 時はピアノ 1 が選ばれています。音色ランプは点灯します。
“音色の選び方”（P.7）でピアノ 1 以外の音色を選ぶことができます。
MASTER VOLUME（マスターボリューム）でお好みの音量に設定して下さい。





■複数の鍵盤を同時に押した時の発音数（同時発音数）は、最大 96 音です。

◇音色の選び方

音色の選び方は、次の３通りあります。
内蔵音色は 15 音色です。電源 ON 時はピアノ 1 が選ばれています。
（ピアノ音色については P8 の下段を参照）

◆音色の選び方　1

サウンドセレクトボタンを押すだけで、内蔵音色を順に選択することができます。

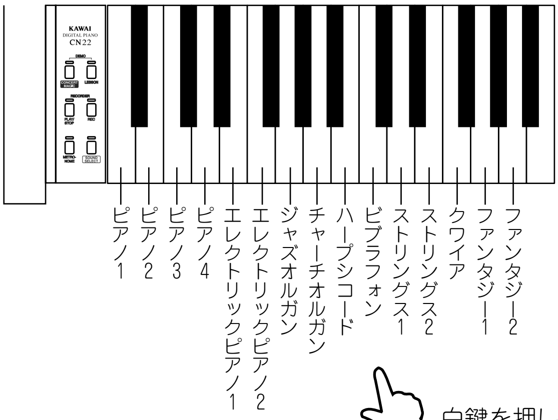
電源ON	SOUND SELECT	点灯 ピアノ１
1回押すと		ピアノ２　（点滅）
2回押すと		ピアノ３　（点滅）
7回押すと		チャーチオルガン　（点滅）
：	：	：　　：
12回押すと		クワイア　（点滅）
：	：	：　　：
15回押すと		ピアノ１　（点灯）

◆音色の選び方　2

サウンドセレクトボタン（SOUND SELECT）を押しながら、白鍵の最低音から15鍵を押して選択します。

SOUND SELECT

押しながら



白鍵を押します。

■ピアノ１を選択すると、ランプが点灯します。
それ以外だと、ランプは点滅します。

付属のファンクションシールを使うと便利です。（P.4 参照）

◆音色の選び方　3（ピアノ１の音色にもどす）

SOUND SELECT

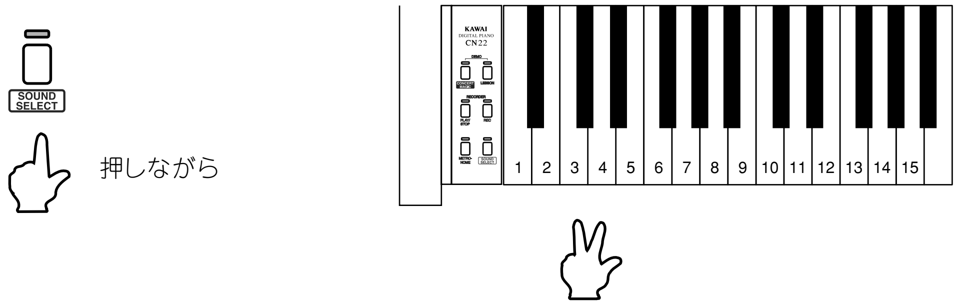
サウンドセレクトボタンを1秒以上押しつづけると、今どんな音色が選ばれていても、ピアノ1に戻ります。
ランプも点灯に戻ります。

2）デュアル演奏

デュアル演奏では２つの音色を重ね合わせて演奏する事ができます。鍵盤を弾けば、選んだ２つの音色が同時に発音し、音に独特の厚みを与えることができ音楽表現の幅が拡がります。

◇ ***操作***

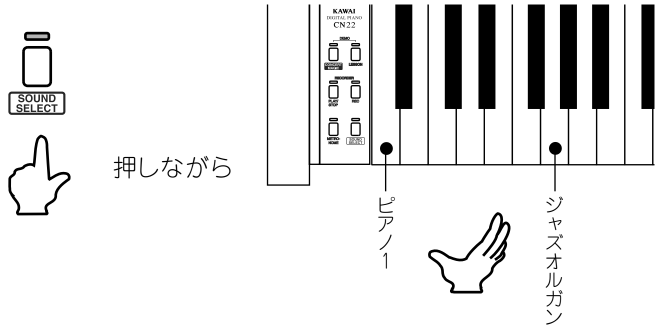
サウンドセレクトボタンを押しながら、白鍵の最低音から15の鍵盤のうち2つを同時に押すと、鍵盤に割り当てられた２つの音色を重ねることができます。（音色割り当てはP.7 参照）



◇ ***例***

◆ ピアノ１とジャズオルガンを重ねる場合

サウンドセレクトボタンを押しながら、白鍵の最低音（ラ）と７番目の（ソ）を同時に押します。



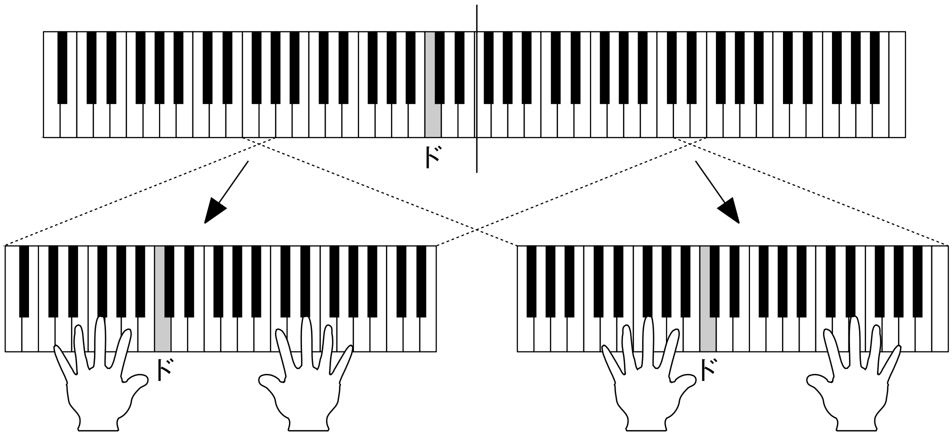
■ピアノ１にもどすにはサウンドセレクトボタンを１度だけ押します。

※ピアノの音色について

ピアノ１：豊かな拡がりのあるグランドピアノの音です。
ピアノ２：すっきりと澄んだグランドピアノの音です。
ピアノ３：明るいポップス向きのグランドピアノの音です。
ピアノ４：エッジの効いた明るくくっきりしたピアノの音です。

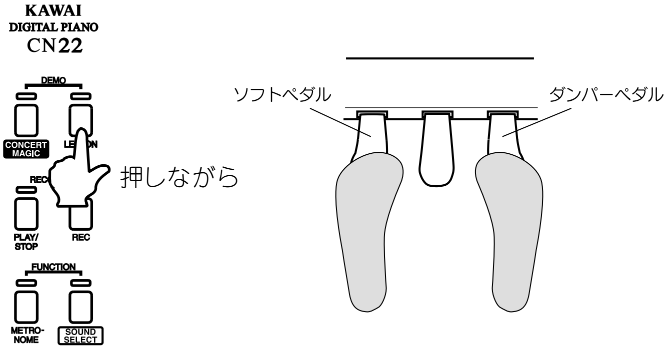
3）4ハンズ（連弾演奏）

鍵盤のほぼ中央で右側と左側に鍵盤を分け、２人でそれぞれ同じ音域で演奏することができます。
この時、ダンパーペダル（右ペダル）は右側の鍵盤のダンパーペダルとして、ソフトペダル（左ペダル）は左側の鍵盤のダンパーペダルとして動作しますので、まるで２台のピアノのようにアンサンブル演奏を楽しむことができます。また、ペダルを使った曲のレッスンにも役立ちます。



◇ ***操作1***

LESSONボタンを押しながらダンパーペダル（右ペダル）とソフトペダル（左ペダル）を踏みます。
LESSONボタンが点滅し、4ハンズ（連弾演奏）ができるようになります。



◇ ***操作2***

4ハンズ（連弾演奏）を解除する時は、ペダルを踏まずに再度LESSONボタンを押します。
LESSONボタンが消灯し、通常の状態にもどります。

■通常の音色を選ぶ方法で、音色を選ぶことができます。両方の音域が同じ音色に設定されます。
■録音はできません。

4）メトロノーム（METRONOME）

メトロノームを使って練習しましょう。

◇ *操作*

メトロノーム（METRONOME）ボタンを押すと、メトロノームボタンが点灯してメトロノームが鳴ります。

再度、メトロノームボタンを押して消灯させると、メトロノームが停止します。

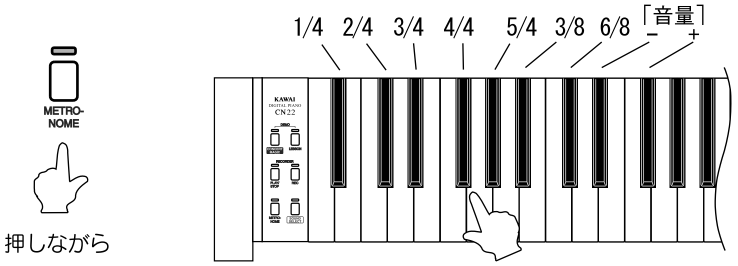
■ 電源オン時は、1/4 拍子 , テンポ 120 の設定になります。

◇ 拍子や音量を設定する

1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 5/4, 3/8, 6/8 の拍子が設定できます。音量（VOLUME）も変えられます。

◇ *操作*

メトロノームボタンを押しながら、黒鍵のいずれかを押して、拍子や音量を設定します。



付属のファンクションシールを使うと便利です。 （P.4 参照）

■ 4/4 拍子を指定する場合は、左から 4 番目の黒鍵を押します。
■ 1/4 拍子選択時には、アクセント（チーン音）が無いクリック音だけになります。
■ 音量は -/+ を押すことで少しずつ調整することができます。

◇ テンポを変える

♩＝ 10 〜 300 の範囲で設定できます。
120などのテンポ値を直接設定する方法と、現在のテンポを少しずつ上げたり下げたりする２つの方法があります。

◇ *操作*

メトロノームボタンを押しながら、鍵盤を押してメトロノームのテンポ指定を行います。

設定は、テンポの値を 2 桁〜 3 桁で入力します。
メトロノームボタンをはなした時、指定した値に設定されます。

◆テンポを「136」に設定したい場合

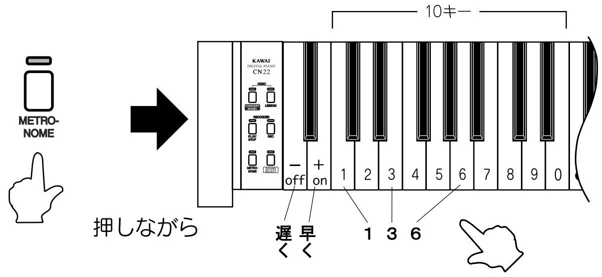
◇ *操作 1*

メトロノームのボタンを押しながら、「1」「3」「6」の鍵盤を押します。

メトロノームボタンをはなします。

◇ *操作 2*

メトロノームのボタンを押しながら、鍵盤のー（off）/ ＋（on）のキーをくり返し押すことで、現在のテンポから少しずつテンポを調整することができます。（テンポの値を 2 ずつ上下できます）



付属のファンクションシールを使うと便利です。 （P.4 参照）

5）音色デモ曲

音色毎にその音色を生かしたデモ曲を 15 曲内蔵しています。
各音色のデモ曲は、以下の通りです。

ピアノ 1 …………	ゴリウォーグのケーク・ウォーク／ドビュッシー	チャーチオルガン	トッカータ / ジグー
ピアノ 2 …………	子犬のワルツ / ショパン	ハープシコード …	フランス組曲第 6 番 / バッハ
ピアノ 3 …………	カワイオリジナル	ビブラフォン ……	カワイオリジナル
ピアノ 4 …………	カワイオリジナル	ストリングス 1 …	四季“春”/ ヴィヴァルディ
エレクトリックピアノ 1	カワイオリジナル	ストリングス 2 …	カワイオリジナル
エレクトリックピアノ 2	カワイオリジナル	クワイア …………	カワイオリジナル
ジャズオルガン …	カワイオリジナル	ファンタジー 1 …	カワイオリジナル
		ファンタジー 2 …	カワイオリジナル

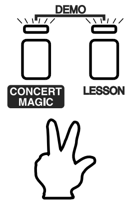
◇ デモ曲を聴く

◇*操作*

CONCERT MAGIC ボタンを押しながら LESSON ボタンを押すと、ピアノ 1 音色のデモ曲が演奏されます。

演奏を止めるには、CONCERT MAGIC または LESSON ボタンを押します。

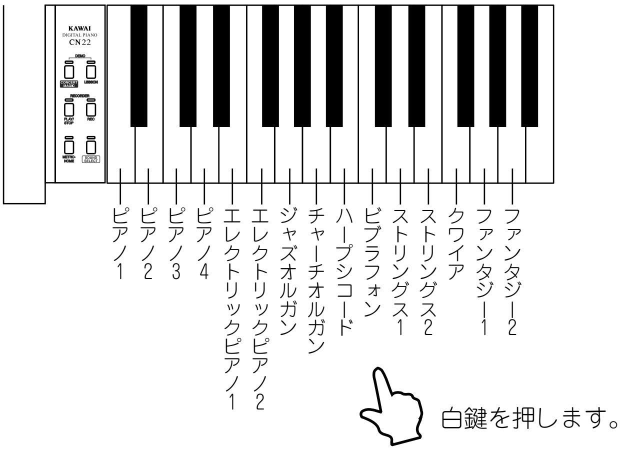
演奏を止めなければ、各音色のデモ曲が順不同に演奏されます。



◇ デモ曲を選ぶ

◇*操作*

デモ曲演奏中、音色を選択すると（前頁の音色の選び方参照）デモ曲も同時に変わります。



6）コンサートマジック

曲	鍵盤	グループ
1. きらきら星	ラ（最低音）	●子供の曲
2. ロンドン橋	シ	
3. ふるさと	ド C0	
4. 山の音楽家	レ	
5. もみじ	ミ	
6. ゆき	ファ	
7. 10人のインディアン	ソ	
8. さくらさくら	ラ	
9. わらの中の七面鳥	シ	
10. 森のくまさん	ド C1	
11. 聖者の行進	レ	● アメリカのクラシック音楽
12. おじいさんの古時計	ミ	
13. リパブリック賛歌	ファ	
14. ロンドンデリーの歌	ソ	
15. ケンタッキーの我が家	ラ	
16. 草競馬	シ	
17. 線路は続くよどこまでも	ド C2	
18. ウィリアムテル序曲	レ	● クラシック音楽
19. 天国と地獄	ミ	
20. エンターティナー	ファ	
21. 花のワルツ	ソ	
22. スケーターズワルツ	ラ	
23. 闘牛士の歌	シ	
24. ブラームスの子守歌	ド C3	
25. アメリカンパトロール	レ	
26. 眠りの森の美女	ミ	
27. ガボット	ファ	
28. 軍隊行進曲	ソ	
29. 双頭のわしの旗のもとに	ラ	
30. エリーゼのために	シ	
31. 結婚行進曲	ド C4	
32. 婚礼の合唱	レ	
33. おめでとうクリスマス	ミ	● クリスマスの曲
34. ジングルベル	ファ	
35. もろ人こぞりて	ソ	
36. きよしこの夜	ラ	
37. フニクリフニクラ	シ	● 世界の民謡
38. こぎつね	ド C5	
39. アニーローリー	レ	
40. サンタルチア	ミ	
	ファ	

これらの曲が掲載された楽譜集「コンサートマジック曲集Vol. 2」（￥2, 600）が発売されております。楽譜掲載88曲中に、これらの40曲が全て含まれています。
同封の「楽譜集のご案内」をご参照ください。又、お申し込みは同封の払込用紙をご利用ください。
コンサートマジックの魅力的な世界が一層広がります。

コンサートマジックは、誰でも、（初めて鍵盤に触れる方でも）鍵盤を使って本格的なピアノ演奏を楽しむことができる機能です。本機には、コンサートマジック用に5グループ,40曲の演奏曲を内蔵しています。

◇ コンサートマジック曲の演奏

◇ *操作1*

CONCERT MAGIC ボタンを押します。
ランプが点灯してCONCERT MAGIC モードに入ります。

鍵盤を弾いてみましょう。

どの鍵盤でもタクトのように拍子をとるようにたたけば演奏を進めることができます。
また鍵盤を弾くタッチによって演奏に強弱をつけることもできます。
テンポの変化をつけることもできます。（モード 1）

また、少し難しいですが、音符のタイミング通りに鍵盤をたたいて進めるモード2に切り換えることもできます。（P.22 参照）

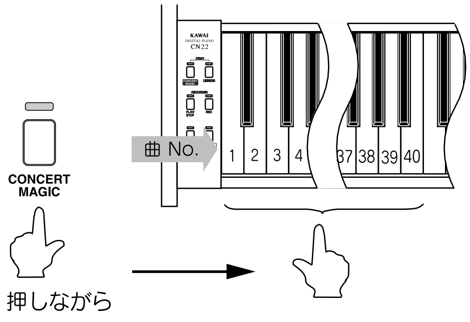
■ **通常の音色変更の場合と同様の操作で、音色を変更することができます。**

◇ コンサートマジック曲の選択

40曲のコンサートマジック曲は、鍵盤（白鍵）に割り当てられており（左図参照）、この鍵盤を使って曲を選択することができます。

◇ *操作1*

CONCERT MAGICボタンを押しながら曲が割り当てられている鍵盤を押します。



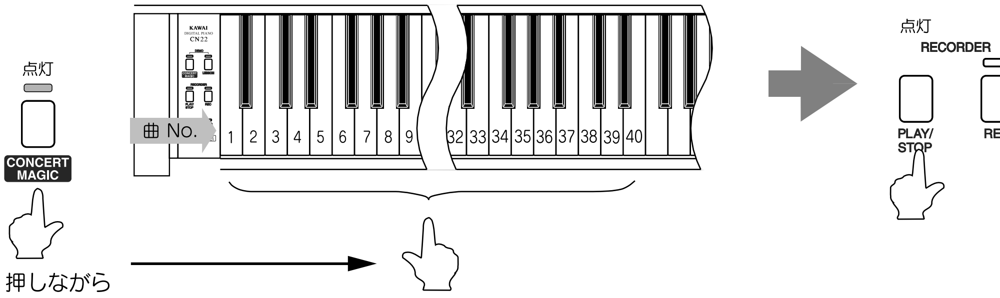
■ **曲名とその割り当てられている鍵盤については、左図を参照ください。**

◇ コンサートマジック曲の再生

コンサートマジック曲は、普通のデモ曲として再生することができます。
どんな曲かまず聴いてみたいときに便利な機能です。

◇ 操作 1

CONCERT MAGIC ボタンを押しながら鍵盤を押して選曲した後、PLAY/STOP ボタンを押します。

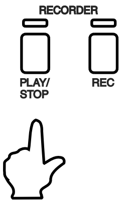


選択されている曲が繰り返し再生されます。

◇ 操作 2

演奏を止めるには、もう一度 PLAY/STOP ボタンを押します。

PLAY/STOP ボタンのランプが消灯します。



◇ その他の再生方法 （チェイン再生 / グループ再生 / ランダム再生）

※チェイン再生

CONCERT MAGIC ボタンを押してコンサートマジックモードに入った後、鍵盤で曲選択をせずに PLAY/STOP ボタンを押します。

１曲目から 40 曲目まで順番に繰り返し再生します。

※グループ再生

CONCERT MAGIC ボタンを押しながら鍵盤を押して選曲し、そのまま（CONCERT MAGIC ボタンを離さないで）LESSON ボタンを押します。

この場合、選択した曲が含まれるグループの曲を順番に繰り返し再生します。
例えば、No.11 の「聖者の行進」を選ぶと、この曲から演奏が開始され、No.11〜No.17 のグループ「アメリカのクラシック音楽」を繰り返し再生します。

※ランダム再生

CONCERT MAGIC ボタンを押した後、手を離し LESSON ボタンを押します。

全内蔵曲を対象に、順不同に曲の再生をし続けます。
但し、１曲目は「きらきら星」です。

3. レッスン機能

バイエル（バリエーション20曲を含む126曲）、ブルクミュラー25の練習曲（25曲）の練習曲を全曲内蔵しています。
ブルクミュラーについては通常再生とペダルなし再生で25曲ずつ再生できます。
練習曲の右手パート、左手パートを別々に再生できます。
練習曲のテンポも変更できます。

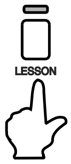
◇ 練習曲をきく

内蔵している練習曲を見本として聴くことができます。また再生中に好きな所で一時停止することができます。

◇ 操作 1

LESSON ボタンを押します。

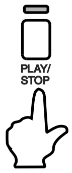
LESSON ボタンが点灯し、レッスンモードに入ります。
音色は自動的にピアノ1になります。



◇ 操作 2

PLAY/STOP ボタンを押します。

PLAY/STOP ボタンが点灯し、選択されている曲が再生されます。



◇ 操作 3

演奏を一時停止するには、もう一度 PLAY/STOP ボタンを押します。

PLAY/STOP ボタンが点滅します。
もう一度 PLAY/STOP ボタンを押せばそこから再生されます。

◇ 操作 4

曲の先頭にもどすには選曲しなおすか、PLAY/STOP ボタンを1秒以上押します。

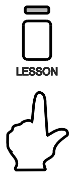
PLAY/STOP ボタンが消灯して先頭にもどります。

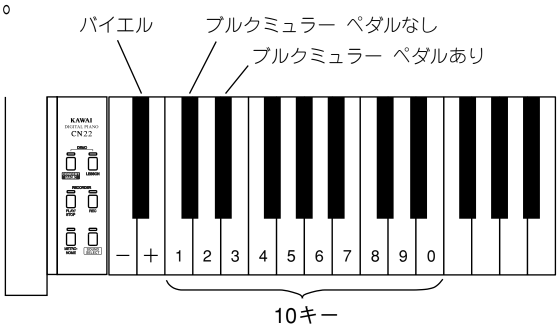
■メトロノームが使えます。曲に応じた拍子で鳴ります。

◇ 練習したい曲の選択

◇ 操作 1

LESSON ボタンを押しながら曲集の割り当ててある黒鍵を押します。
そして鍵盤の10キー（テンキー）を使って番号を入力します。





■選択する前はバイエルの一番になっています。
■同一曲集内で曲を選ぶ場合黒鍵は省略できます。
■一曲ずつ順番に選びたい場合には十・ーキーを使うと便利です（例 P15）。

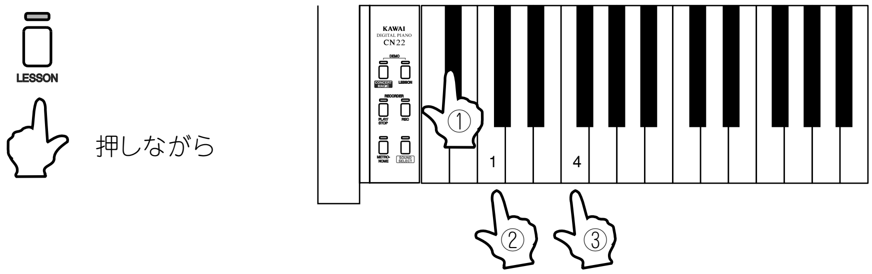
◇ 操作 2

LESSON ボタンを離します。

◇ *例*

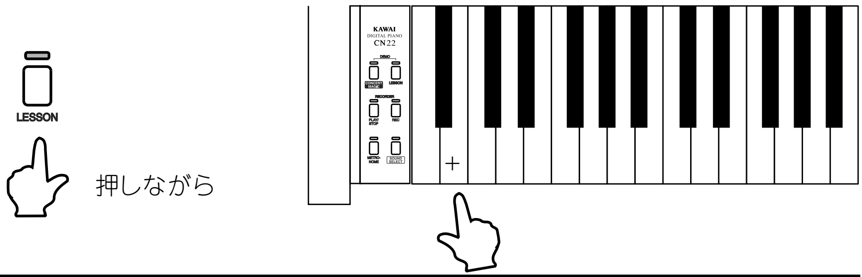
◆ **バイエルの14番を選ぶ時**

LESSONボタンを押しながらバイエル、1、4と順番に押してLESSONボタンを離します。



◆ **バイエルの14番から15番にする時**

LESSONボタンを押しながら＋を押してLESSONボタンを離します。



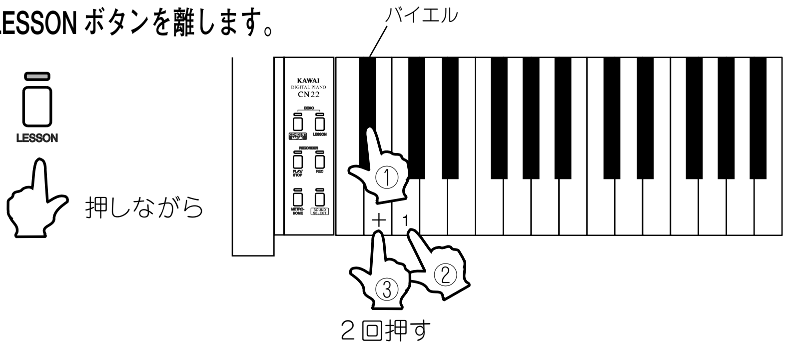
◇ バイエルのバリエーションを選ぶ

バイエルは全部で106番まであります。
そのうち1番と2番にはテーマの他にバリエーションがそれぞれ12曲と8曲ずつあります。

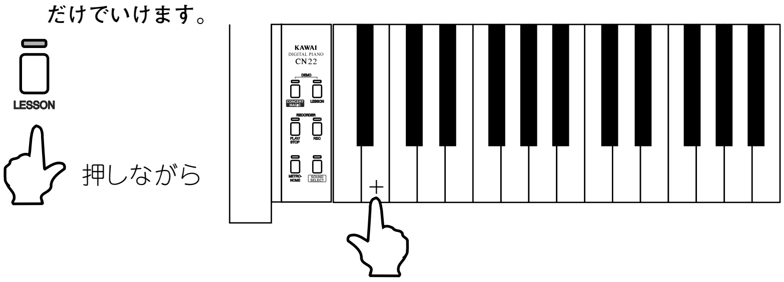
◆ **1番のバリエーションの2（1－2）を選ぶ場合。**

◇ *操作*

LESSONボタンを押しながらバイエルの黒鍵を押します。
1を押します。バリエーションの数だけ＋を押します。(＋を2回おします。)
LESSONボタンを離します。



■**1－2から1－3へは下記のようにLESSONボタンを押しながら＋を1回押すだけでいけます。**



バイエルの構成

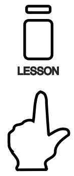
1番	テーマ
1-1 1-2 1-3 ・ ・ ・ 1-12	バリエーション
2番	テーマ
2-1 2-2 2-3 ・ ・ ・ 2-8	バリエーション
3番	
4番	
・ ・ ・	
106番	

◇ レッスン機能を終了する

◇ *操作*

LESSON ボタンを押します。

LESSON ボタンが消灯し、通常の状態にもどります。



◇ 練習曲の片方のパートを再生しながら、もう片方のパートを練習する

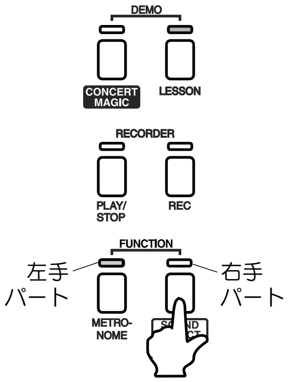
LESSONボタンを押してLESSONモードに入った直後は右手左手の両パートが再生可能な状態になっています。LESSON モードに入った時、METRONOME ボタンと SOUND SELECT ボタンの両方が点灯します。これは左右両方のパートが再生することを示しています。

◆ 練習曲の左手パートのみを再生したい場合。

◇ *操作*

SOUND SELECT ボタンを押します。

SOUND SELECTボタンが消灯してMETRONOMEボタンが点灯します。これで左手のパートのみ再生されるようになります。



PLAY/STOP ボタンを使って再生させます。

左手を再生しながら右手の練習をすることができます。

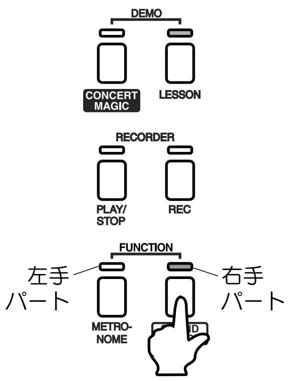
■ SOUND SELECT ボタンを押すたびに再生されるパートが変更されます。
両手→左手→右手→両手

◆ 練習曲の右手パートのみを再生したい場合

◇ *操作*

SOUND SELECT ボタンを 2 回押します。

METRONOME ボタンが消灯して SOUND SELECT ボタンが点灯します。これで右手パートのみが再生されるようになります。



PLAY/STOP ボタンを使って再生させます。

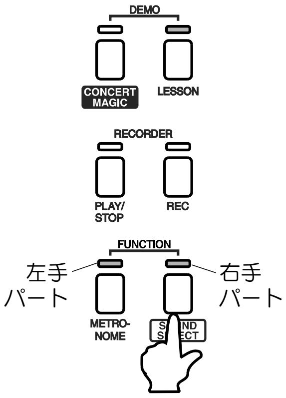
右手を再生しながら左手の練習をすることができます。

◆ 両手パートの再生をしたい場合（パート再生をやめて通常の再生に戻したい場合）

◇ ***操作***

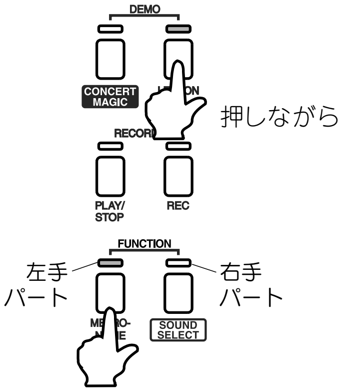
SOUND SELECT ボタンを 3 回押します。

METRONOME ボタンと SOUND SELECT ボタンが点灯します。
これで右手パート、左手パートの両方が再生されるようになります。



■ 一度レッスンモードを終了してすぐに入り直せば通常再生に戻ります。
（LESSON ボタンを 2 度押します。）

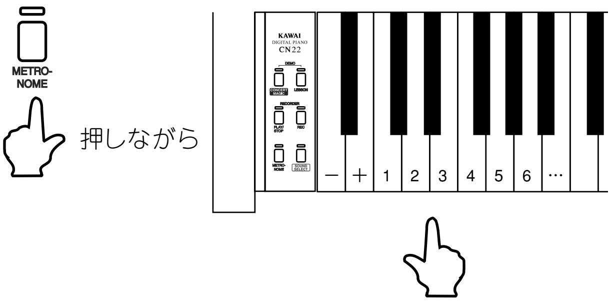
■パートをダイレクトに選ぶことができます。
LESSON ボタンを押しながら再生したいパートのボタンを押します。



◇ 練習曲の再生テンポを変更する

◇ ***操作 1***

METRONOMEボタンを押しながら、鍵盤のテンキーを押してテンポ指定をおこないます。(♩＝10～300)
METRONOME ボタンを離します。



◇ ***操作 2***

METRONOME ボタンを押しながら、鍵盤のー（off）／＋（on）を繰り返し押して現在のテンポから少しずつテンポを調整することができます。

（テンポの値は 2 つずつ上下できます。）

■元のテンポに戻すには METORONOME ボタンを押しながら、鍵盤の＋、ーを同時に押します。
もしくは練習曲を選び直します。

4. 録音・再生

1）録音

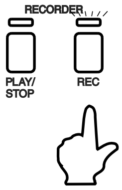
本機では、自分の演奏を録音し、再生することができます。

◇ 録音をしましょう

◇ 操作 1

RECORD ボタン を押します。

RECORD ボタンが点滅します。

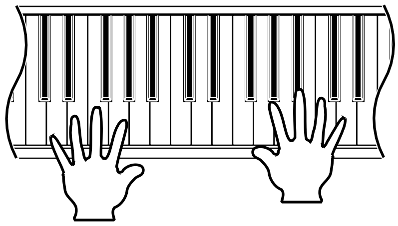


◇ 操作 2

鍵盤を弾いて録音をスタートします。

鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
このとき、RECORD ボタンと PLAY/STOP ボタン のランプが両方点灯します。

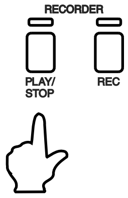
■ PLAY/STOP ボタンを押しても録音を開始できます。



◇ 操作 3

演奏が終わったら PLAY/STOP ボタン を押して録音を終了します。

RECORD ボタン と PLAY/STOP ボタン のランプが消え録音が停止します。



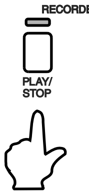
■ レコーダーの総記憶容量は、約 7,500 音です。録音中に記憶容量が一杯になったときは、
録音が中止されます。
中止される直前までの演奏は録音されます。

2）再生

録音した曲を再生します。

□ *操作 1*

PLAY/STOP ボタンを押します。



PLAY/STOP ボタンが点灯し、今録音した曲が再生されます。

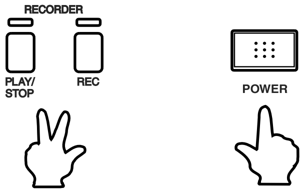
■ **再度 RECORD（録音）ボタンを押して、録音を開始すると、前に録音された曲は消去され、新しく弾いた曲が録音されます。**

3）録音内容の消去

録音した曲を消去したい場合、まず電源スイッチを切ります。

◇ *操作 1*

PLAY/STOP ボタンと RECORD ボタンを押しながら、
電源を ON にします。



押しながら

録音した曲が消去されます。

5.設定モード（ファンクション）

ピアノ演奏をさらに楽しむための設定を変えることができます。

1）設定モードの基本的な使い方

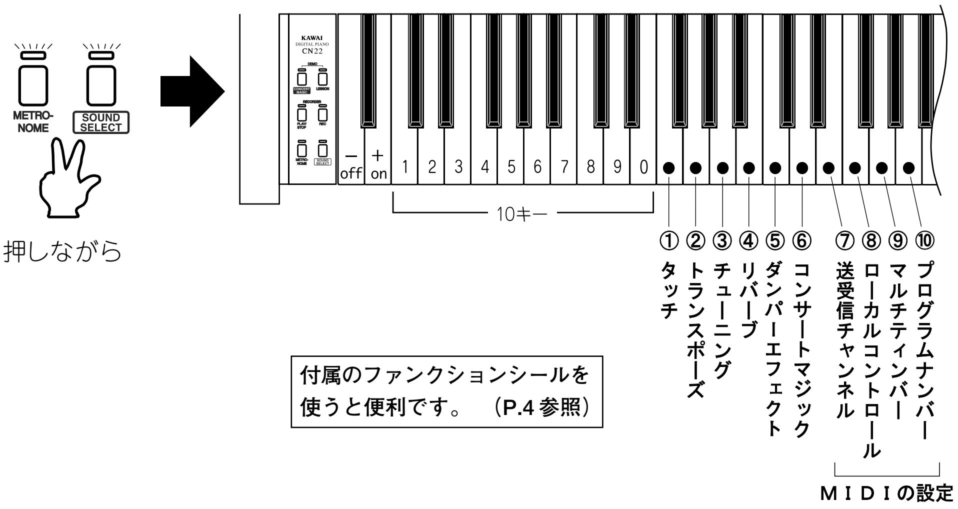
◇ *設定モードに入り、設定項目を選びます。*

METRONOMEボタンとSOUND SELECTボタンを同時に押しながら（設定中は常に押し続けます）、設定したい項目①～⑩の鍵盤を押して設定項目を選びます。設定中はMETRONOMEボタンとSOUND SELECTボタンが点滅します。

■ コンサートマジックボタンまたはレッスンボタン点灯中は設定モードに入れません。

◇ *値を設定します。*

鍵盤に割り当てられている10キー、もしくはー（off）/＋（on）キーで値を入力します。



付属のファンクションシールを使うと便利です。（P.4参照）

◇ *設定モードから抜けます。*

押し続けたMETRONOMEボタンとSOUND SELECTボタンを離します。

■ 電源を入れたときは、ここで設定した値はリセットされ、自動的に下記初期値に設定されます。

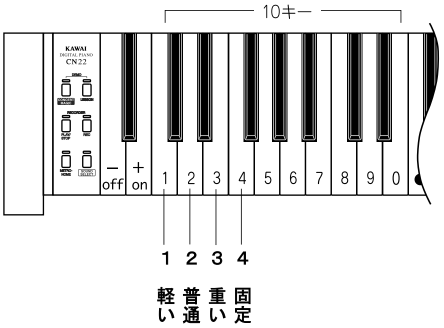
●設定項目	●初期値
① タッチ（鍵盤を弾く強さによる音量）	普通（ノーマル）
② トランスポーズ（鍵盤の調）	0
③ チューニング（本体のピッチ）	A4＝440.0Hz
④ リバーブ（残響）	オン
⑤ ダンパーエフェクト	2（普通）
⑥ コンサートマジック演奏方法	モード1
⑦ MIDI送受信チャンネル	1ch
⑧ ローカルコントロール	オン
⑨ マルチティンバーモード	オフ
⑩ プログラム（音色）ナンバー	オン

2）タッチを変える

鍵盤を弾く強さによる音量を変更できます。指の強さ、お好みに合わせて、４種類のなかから選択できます。

◇ *操作*

METRONOME ボタンとSOUND SELECT ボタンを押しながら①の鍵盤（P.20参照）を押し、次に10キーの1〜4で設定します。



1	軽い（ライト）	弱いタッチで弾いても大きな音がでます。
2	普通（ノーマル）	生ピアノと同程度のタッチで音量が変化します。
3	重い（ヘビー）	強いタッチで弾かないと大きな音がでません。
4	固定（オフ）	鍵盤を弾く強さに関係なく常に一定の大きさで発音します。

■ **電源を入れた時は 2 の普通（ノーマル）に設定されます。**

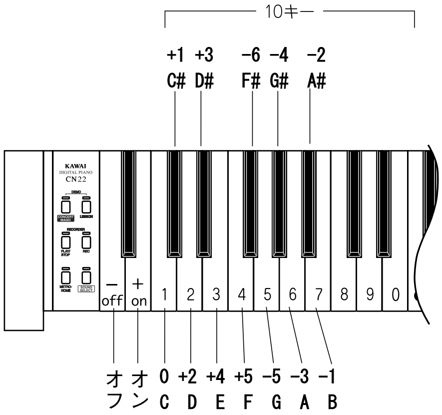
3）トランスポーズ

半音単位で移調できます。

◇ *操作*

METRONOME ボタンとSOUND SELECT ボタンを押しながら②の鍵盤（P.20参照）を押し、次に10キー域の鍵盤（右図）で好みの高さのキーを設定します。

■オンオフキーを使えば設定値をかえずにトランスポーズのオンオフができます。
右図の鍵盤でトランスポーズの値を設定した場合はオンになります。



4）チューニング

チューニング調整は、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。
442Hz 等と周波数を設定する方法と、他の楽器の音に合わせて上げたり下げたりする２つの方法があります。
電源を入れた時は、A4 ＝ 440Hz に設定されます。0.5Hz 単位で設定できます。

◇ *操作１*

METRONOME ボタンとSOUND SELECT ボタンを押しながら③の鍵盤（P.20 参照）を押し、10 キーで周波数を設定します。

例えば、「A4 ＝ 441.5Hz」に設定する場合鍵盤「4」「4」「1」を押し、さらに「＋」を押します。
もしくは、鍵盤「4」「4」「2」を押し、さらに「－」を押します。
427 〜 453Hz の範囲で設定できます。

◇ *操作２*

METRONOME ボタンとSOUND SELECT ボタンを押しながら③の鍵盤（P.20 参照）を押し、－（off）/＋（on）キーで上げたり下げたりします。

この操作では、0.5Hz 刻みで値が変更できます。

5）リバーブ（残響）

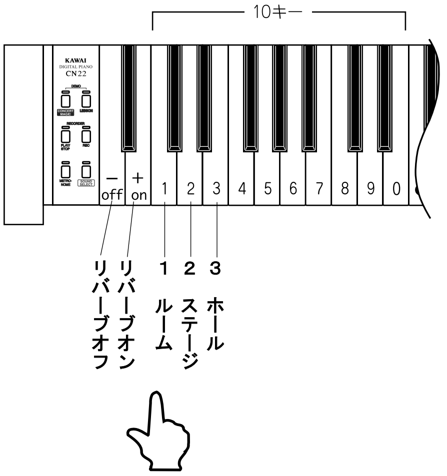
各音色はあらかじめ最適なリバーブの設定になっています。

各音色毎に下記２つが設定できます。
・リバーブ効果を付加する（オン）、付加しない（オフ）
・リバーブ効果の種類（タイプ）を変える、３段階（ルーム、ステージ、ホール）

◇ *操作１*

METRONOMEボタンとSOUND SELECTボタンを押しながら④の鍵盤（P.20参照）を押し、鍵盤上のー（off）/＋（on）キーでオンオフを設定します。

ー（off）：オフ（残響なし）
＋（on）：オン（残響あり）



◇ *操作２*

鍵盤上の10キーでタイプを設定します。

１：ルーム　　部屋で弾いているような響きです。
２：ステージ　ステージで弾いているような響きです。
３：ホール　　ホールで弾いているような響きです。

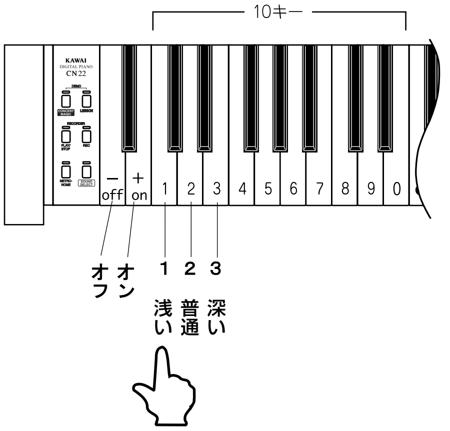
■ **ルーム→ステージ→ホールの順で残響音が長くなります。**
■ **タイプを設定すればリバーブオンになります。**

6）ダンパーエフェクト

ピアノ音色でダンパーペダルを踏んだ時の共鳴効果の深さをかえることができます。

◇ *操作１*

METRONOMEボタンとSOUND SELECTボタンを押しながら⑤の鍵盤（P.20参照）を押し、次に10キー域の鍵盤（右図）で深さを設定します。



■ **オンオフキーを使えば設定値をかえずにオンオフできます。
10キーで設定した場合はオンになります。**
■**電源を入れたときは、２の普通に設定されます。**

7）コンサートマジックの演奏モードを切り換える

コンサートマジックは２通りの演奏方法で楽しむことができます。（P.12,13参照）

モード１：メロディーに関係なく、等間隔に鍵盤をたたいて曲を進めます。たたく間隔で曲の速さが決まります。鍵盤をたたく強さによって曲の強弱をつけることもできます。電源オン時のモード。
モード２：曲の音符通りに鍵盤をたたいて曲を進めます。モード１より難しいですが、1音１音にタイミングの変化をつけることができます。

◇ *操作*

METRONOMEボタンとSOUND SELECTボタンを押しながら、⑥の鍵盤（P.20参照）を押し、鍵盤上のー（off）/＋（on）キーでモード１、２を切りかえます。

ー（off）：モード１
＋（on）：モード２

◇ MIDI（ミディ）とは？

MIDI（Musical Instrument Digital Interface）は、電子楽器やコンピューター機器などの間で、演奏情報等をやりとりするための統一規格です。
本機の MIDI 端子は、IN, OUT の２種類があります。いずれも MIDI 専用ケーブルで接続します。
IN：鍵盤情報や音色情報を受信します。
OUT：鍵盤情報や音色情報を送信します。

※“MIDI”は社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

■外部機器などを使っての録音 / 再生

外部シーケンサーを MIDI 接続すると電子ピアノの演奏を録音し、それを再生することができます。また、電子ピアノの設定をマルチティンバーオン（P.20参照）にして録音/再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラフォンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。外部機器との接続は、5 ページを参照ください。

◇本機 MIDI 機能

・鍵盤情報の送信・受信
・送信・受信チャンネルの設定
・プログラム（音色）ナンバーの送信
・ペダル情報の送信・受信
・ボリューム情報の受信
・マルチティンバーの設定
・エクスクルーシブデータの送信・受信

8）MIDI 送信・受信チャンネル

MIDI の送信・受信チャンネルを設定します。

◇ 操作

METRONOME ボタンと SOUND SELECT ボタンを押しながら⑦の鍵盤（P.20参照）を押し、次に10キーでチャンネルを設定します。

■ 入力は、必ず２桁で行います。９チャンネルに設定する場合は、「0」「9」と入力します。
■ MIDI チャンネルは、１～16 の間で設定できます。
■ 電源を入れたときは、１チャンネルに設定されます。

9）ローカルコントロール

本体の鍵盤を弾いて本体の音を出すか、出さないかの設定をします。
オンのときは、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴り、MIDI も送信されます。
一方、オフの時は、鍵盤を弾いても本体の音は鳴らず、MIDI のみが送信されます。
いずれの場合も、MIDI 受信では本体の音は鳴ります。

◇ 操作

METRONOME ボタンと SOUND SELECT ボタンを押しながら⑧の鍵盤（P.20参照）を押し、次にー（off）/ +（on）キーで設定します。

■ 電源を入れた時は、オンに設定されます。

10）マルチティンバー・モード

通常は、設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか1つ）で情報を送受信しますが、マルチティンバー・モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信し、その受信したプログラムナンバーに対応した異なる音色を同時に発音させせることができます。（受信したプログラムナンバーに対応した音色は下表の通りです。）
この機能により、外部のシーケンサーを使って、本機1台で複数の音色（マルチティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。（マルチティンバーモードオンの時、10chで受信したデータは発音しません。）

◇ *操作*

METRONOMEボタンとSOUND SELECTボタンを押しながら⑨の鍵盤（P.20参照）を押し、次にー（off）/＋（on）キーで設定します。

＊電源を入れた時は、オフに設定されます。

◆音色に対する送受信プログラムナンバー

音　色	送受信プログラムナンバー			
	マルチティンバー　オン時			オフ時
	プログラム#	バンクMSB	バンクLSB	プログラム#
ピアノ1	1	121	0	1
ピアノ2	1	95	16	2
ピアノ3	1	121	1	3
ピアノ4	2	121	0	4
エレクトリックピアノ1	5	121	0	5
エレクトリックピアノ2	6	121	0	6
ジャズオルガン	18	121	0	7
チャーチオルガン	20	121	0	8
ハープシコード	7	121	0	9
ビブラフォン	12	121	0	10
ストリングス1	49	121	0	11
ストリングス2	45	95	1	12
クワイア	53	121	0	13
ファンタジー1	89	121	0	14
ファンタジー2	100	121	0	15

11）プログラム（音色）ナンバー送信

下記２つが設定できます。
・音色を切りかえたとき、プログラムナンバーを送信するかしないか（オン / オフ）の設定。
・好みのナンバー（1 ～ 128）の送信（外部 MIDI 音源の音色を変更できます）。

◇ *操作 1*

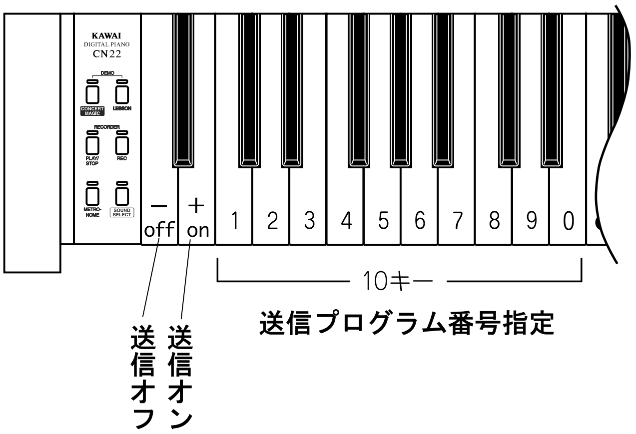
METRONOME ボタンと SOUND SELECT ボタンを押しながら⑩の鍵盤（P.20 参照）を押し、ー（off）/ +（on）キーでプログラムナンバーの送信するしないを設定します。

■ 電源を入れた時は、オンに設定されます。

◇ *操作 2*

鍵盤上の 10 キーを押すことでプログラムナンバーが送信されます。

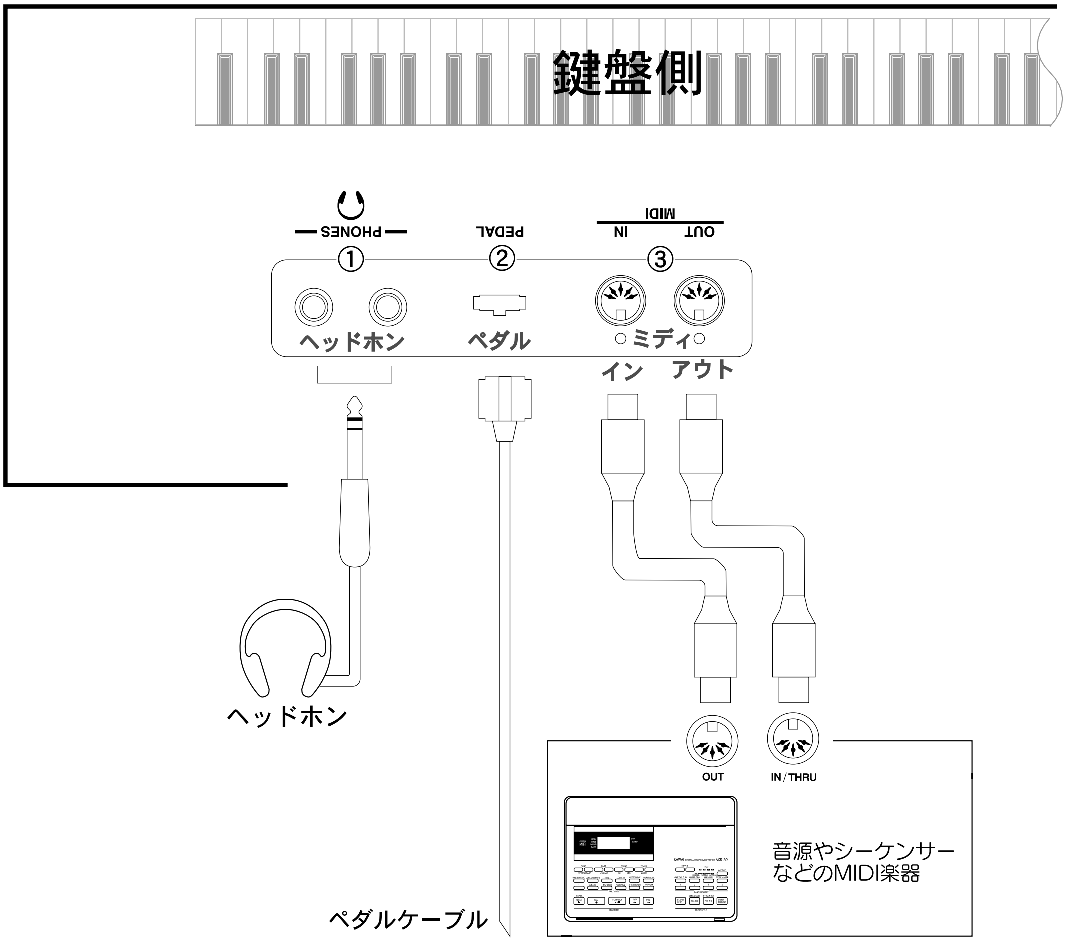
■ 001 ～ 128 までの範囲で送信可能です。プログラムナンバーの入力は、3 桁で行います。
■ 例えば、プログラムナンバー 1 を入力する場合は、「0」「0」「1」と入力します。
■ 3 桁目が入力されると同時に、プログラムナンバーが送信されます。



6.付　録

1）外部機器との接続

※電子ピアノを下から見た図です。



① PHONES（ヘッドホン端子）
ヘッドホンを接続する端子です。
2本まで接続できます。

② PEDAL（ペダル端子）
ペダルユニットから出ているペダルケーブルを接続する端子です。

③ MIDI（ミディ）
MIDI規格に対応している楽器と接続する端子です。

2）本体の組み立て方

⚠ 注意

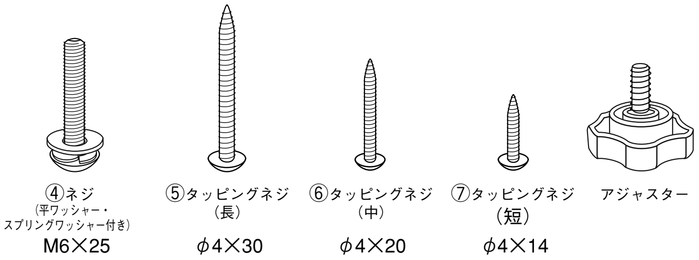
組立作業は、必ず２人で行ってください。

本機を移動する時は、水平に持ち上げるようにし、手を挟んだり、足の上に落とさないよう、十分注意してください。

※組立てる前に、部品がそろっていることを確認して下さい。
　また、プラスドライバーをご用意下さい。

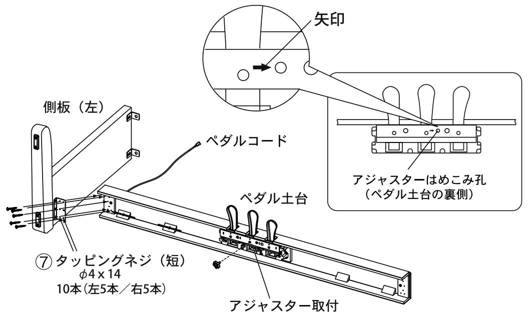
■パーツ（同梱品）

①側板/妻土台 ････････････････････････ 2（左右）
②裏板 ･･････････････････････････････ 1
③ペダル土台 ････････････････････････ 1
④ネジ（平ワッシャー・スプリングワッシャー付き） ･･ 4
⑤タッピングネジ（長） ････････････････ 2
⑥タッピングネジ（中） ････････････････ 4
⑦タッピングネジ（短） ･･････････････ 10
⑧アジャスター ･･････････････････････ 1
⑨ヘッドホンフックセット
　・ヘッドホンフック ･････････････････ 1
　・タッピングネジ ･･･････････････････ 2



■組み立て順序

1

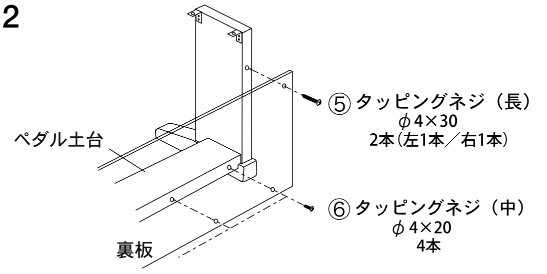


１．ペダル土台の裏側からアジャスター（高さ調整ネジ）を矢印の指す孔に１㎝ぐらいはめこみます。
また、ペダル土台に結ばれているペダル接続コードをほどいて、ペダル接続コードを引き出しておいてください。

ペダル土台に仮止めされているネジを側板の金属の溝にはめ込み、側板とペダル土台をぴったりと押しあててネジを締めます。
側板／妻土台は、左右あるので組み合わせに注意してください。
残りのネジ穴に先の尖ったネジ⑦（φ4 × 14）で固定します。

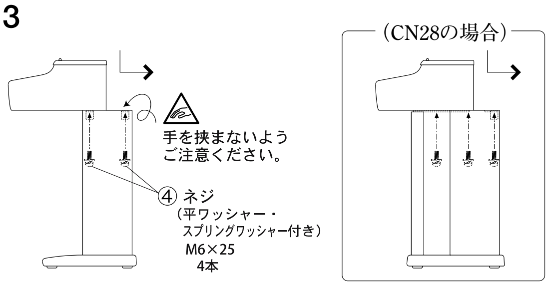
ここがポイント！
・側板（左／右）とペダル土台をしっかり密着させて下さい。

2



２．裏板を側板に取り付けます。
タッピングネジ⑤（長）で裏板上部を固定します。
次に４本のタッピングネジ⑥（中）で下部を固定します。
この時、側板と裏板にスキがないように密着させて取り付けてください。

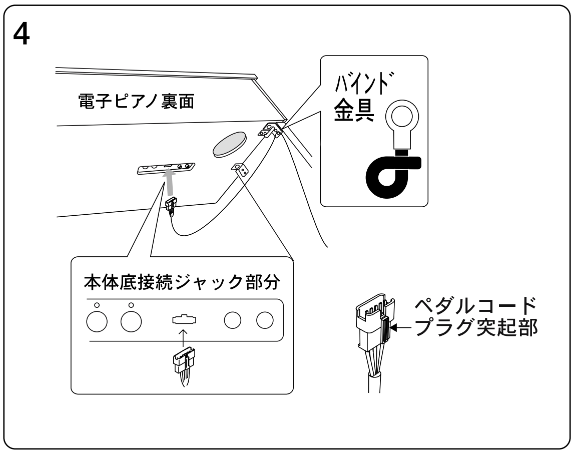
3



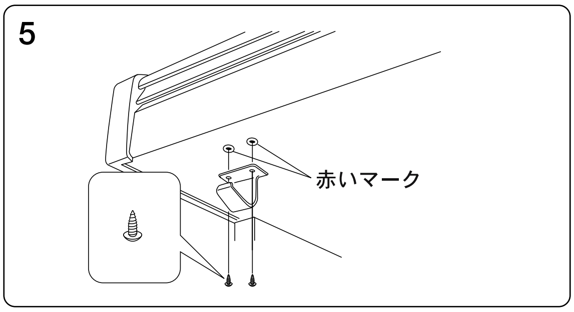
３．本体をスタンドに静かに載せます。
真上から見て、本体の後ろに金具の穴が見えるくらい本体の前方に載せます。
スタンドを固定して、本体が傾いて落ちないように一方の手で前部を支えながら本体を後ろにスライドさせると、本体のフックが側板の金具に引っかかります。
この時、本体の後ろを支持している手を、側板と本体の間ではさまないように注意してください。

本体とスタンドを４本のネジ④（平ワッシャー・スプリンングワッシャー付き）で固定します。
まず、ネジを軽く締めて、４本のネジがすべてまっすぐ入るように本体の位置を調整してから、きちんとネジを締めるようにしてください。
この時、スプリングワッシャーがつぶれるまでしっかり締めてください。

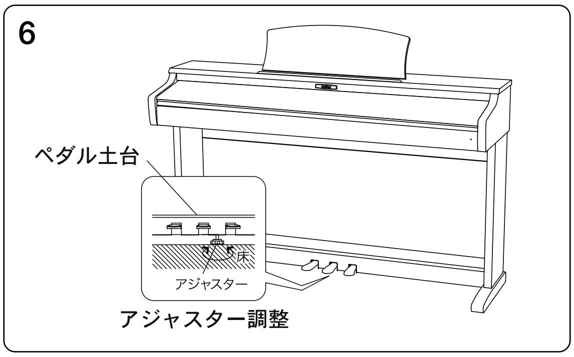
⚠ 注意 必ず本体とスタンドをネジで固定してください。
固定しないと、本体がスタンドから落ち、大変危険です。



4．ペダル土台から出ているペダル接続コードを端子の突起部を手前にして本体のペダル端子に差し込み、コードが適当な位置になるような場所にバインド金具で巻き付けて固定して下さい。



5．ヘッドホンフックは同じ袋に入っている2本のタッピングネジで赤いマークの位置に固定してください。



6．ペダル土台の裏にはめたアジャスターを、床にピッタリ付くまで回してペダル土台を補強します。

⚠注意　アジャスターボルトをしっかり床に付けないとペダル土台が壊れる恐れがあります。
また移動の際は、引きずらないで、必ず床から持ち上げて移動してください。

3）主な仕様

■ 鍵　盤	88鍵/アドバンスト・ハンマー・アクションⅣ-F
■ 同時発音数	最大96音
■ 音　色	ピアノ1、ピアノ2、ピアノ3、ピアノ4、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、ジャズオルガン、チャーチオルガン、ハープシコード、ビブラフォン、ストリングス1、ストリングス2、クワイア、ファンタジー1、ファンタジー2
■ その他の機能	ボリューム、トランスポーズ、チューニング、デュアル、4ハンズ（連弾演奏）、デモ（15曲）、タッチカーブ選択（ライト、ノーマル、ヘビー、オフ）、リバーブ（ルーム, ステージ, ホール）、ダンパーエフェクト、コンサートマジック（40曲）
■ レッスン	練習曲：バイエル全126曲（バリエーション20曲を含む） ブルクミュラー全25曲　右手・左手個別再生可、テンポ変更可
■ レコーダー	総記録容量　約7,500音
■ メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、3/8、6/8拍子
■ ペダル	ダンパー（ハーフ対応）、ソフト、ソステヌート
■ 外部端子	ヘッドホン（2）、ペダル、MIDI（IN、OUT）
■ 出　力	16W×2
■ スピーカー	12cm×2
■ キーカバー	スライド式
■ 定格電圧	AC100V、50/60Hz
■ 消費電力	50W
■ 仕上げ	CN22：ローズウッド調、チェリー調 / CN28：チェリー調
■ 寸　法	（W×D×H）137×40.5×84（cm）（譜面台含まず）
■ 重　量	（譜面台含む本体） CN22：42kg / CN28：43.5kg
■ 同梱品	本体/スタンド一式/譜面台/電源コード/取扱説明書（本書）/ファンクションシール（1組）/保証書/スタンド組立図/高低自在椅子/ヘッドホン/ご愛用者カード/アフターサービスと音楽教室のご案内/楽譜集のご案内/楽譜集の払込取扱票/ヘッドホンフック

※同梱品に関して

同梱品の内容及びその仕様は予告なく変更させていただく場合があります。

4）故障かな？と思ったら

電源が入らない（パイロットランプが点灯しない）

→ 電源ケーブルが本体にしっかり差し込んであるか確認する。（P.6）

鍵盤を弾いても音が出ない

→ MASTER VOLUME（マスターボリューム）が下がっていないか確認する。（P.6）
また、ヘッドホンが接続されたままになってないか確認する（P.5）

ペダルが効かない

→ ペダル接続コードが本体の端子にしっかり差し込まれているか確認する（P.28-4）

ヘッドホンのL側からしか音が出ない（R側から音が出ない）

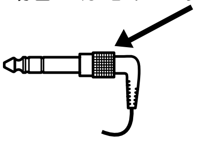
→ 十分奥までプラグが本体に差し込んであるか確認する

ヘッドホンを抜いたのにスピーカーから音が出ない

→ ヘッドホンの差し込みプラグの先端部が本体に挿入されたままではないか確認する。

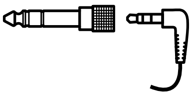
付属のヘッドホンのプラグ部は下図のように着脱可能（2つの部品）になっています。
本機で使用する場合は必ずAの状態で使用してください。
またヘッドホンを本体に抜き差しする場合には必ず**この部分**を持って行うようにお願いします。

A：



本機使用時（着時）

B：



脱時

症状が改善されない場合や、その他ご不明な点がございましたら、下記までご連絡いただきます
ようお願い致します。

［**お問い合わせ先**について］

◆ご不明な点がございましたら、下記**お客様相談室**をご利用ください。

お客様相談室
Tel : 053-457-1311　　E-mail : customer@kawai.co.jp
電話受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00（土日曜、祝日及び弊社規定の休日を除きます）

お客様サポート・お問い合わせフォーム
http://www.kawai.co.jp/の「お客様サポート」よりお進みください。

◆故障と思われる場合については、お買い求めいただいた販売店、または
お近くのフィールドサポートまでご連絡ください。

※詳細は同梱の「アフターサービスと音楽教室のご案内」の冊子をご参照ください。

KAWAI［Model CN22/28］

MIDI IMPLEMENTATION CHART

Date : August , 2008
Version : 1. 0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 ～ 16	1 1 ～ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *********	モード1 モード1,3 * ×	* 電源 ON 時オムニ・オン。MIDI チャンネル設定操作によりオムニ・オフ。
ノート ナンバー	音域	15 - 113 ** *********	0 - 127 15 - 113	**15-113 トランスポーズを含む
ベロシティ	ノート．オン ノート．オフ	○ 9nH v=1-127 × 8nH v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ．ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	7 64 66 67	× ○（右ペダル） ○（中ペダル） ○（左ペダル）	○ ○ ○ ○	ボリューム ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○	○	（プログラムチェンジ対応表参照）［P.24］
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON／OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○ ○ ×	
備　考				

モード 1 ：オムニオン、ポリ　　モード 2 ：オムニオン、モノ
モード 3 ：オムニオフ、ポリ　　モード 4 ：オムニオフ、モノ

○: 有り
×: 無し

付録⑥

KAWAI

株式会社 河合楽器製作所
電　子　楽　器　事　業　部
〒430-8665　浜松市中区寺島町200番地
TEL.<053>457-1277 / FAX.<053>457-1279
http://www.kawai.co.jp

KPSZ-0254
816345
Printed in Indonesia

© 2008（株）河合楽器製作所
本取扱説明書の一部、もしくは全部を無断で複写・転載することを禁じます。
2008年10月発行